

第 11 期英語論文海外学会報告

第 11 期 蓮岡 聡美

第 11 期三田論チーム発足当初、一番進んでいたマケ論チーム。サクサクっと核論文も決まり、方向性も見えてきた我々に、小野先生は、「三田祭論文を英訳しないか」とおっしゃった。もちろん、我々5人は、「海外で学会発表とかかっこよすぎる！行きたい！！！」と全会一致で飛びついた。かくして、第 11 期マケ論は、兼英論チームとなったのだ。

三田祭での発表を終えた我々は、早速三田祭論文の英訳に取り掛かった。しかし、この作業がなかなか難しい。我々マケ論チームは、三田祭論文の英訳の誘いに飛びついたものの、もちろん、英語で論文なんてかいたこともなければ、そもそも、英語がめっちゃ得意！というわけでもなかったのである。それでもなんとか英訳をし、1月の半ば、我々は、先生が紹介してくださった国際学会に論文を投稿した。無事に投稿できたことに安堵し、勝手にシンガポールでの学会発表に思

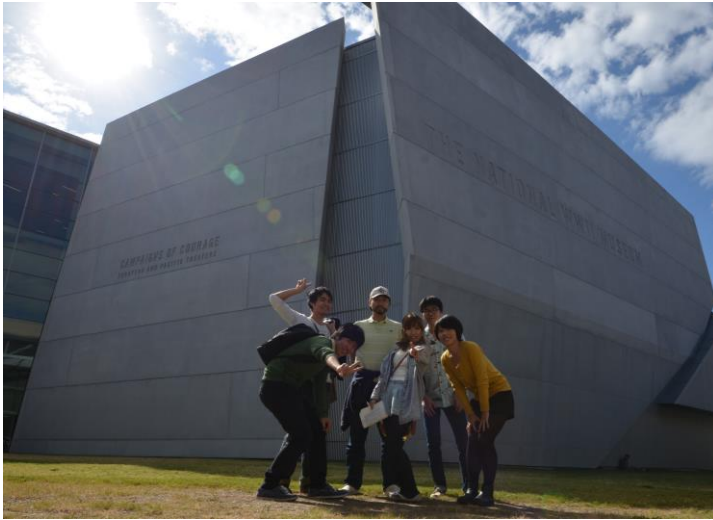


発表後のマケ論メンバーと小野先生

いを馳せる我々であった。しかし、その数カ月後、我々の元に悲報が届いた。そう、残念なことに、我々の論文は、査読を通過することができなかったのである。落胆する我々に、先生は、もう 1 度英論チームとしての機会下さった。内心、「まただめだったらどうしよう」なんて思っていた。そんな我々に、先生は、「論文の内容は悪くない、ただうまく伝わらなかっただけだよ」と優しい言葉をかけてくださった。そんな先生の言葉に後押しされて、我々は先生の下で、再度、丁寧な指導を賜った。先生とのやり取りを繰り返すごとに、我々の拙い英語は、着実にブラッシュアップされていった。英論を投稿して数カ月経ったある日の朝、1 通のメールが我々に届く。「Congratulations! Your paper is accepted!」——そう、我々は SMA (Society of Marketing Academy) というアメリカで開かれる国際学会への切符を勝ち取ったのである。

◆アメリカニューオーリンズでの学会発表 (2014 年 11 月)

かくして、2014 年 11 月、12 期生が三田祭論文の締切日に向けて最後の追い込みをかける時期に、我々



第二次世界大戦博物館前にて、英論メンバーと小野先生

はそんな 12 期生達に引っ張りだこの小野先生を連れて、アメリカ、ニューオーリンズの地へ旅立った。

学会発表の準備をしつつ、我々は、先生との初めてのアメリカの旅を楽しんだ。初めての国際学会の舞台に、色々と思いを馳せながら、初めて聴く本場ジャズや初めて食べる南部料理など思う存分にニューオーリンズの街を満喫した。

そうこうして、迎えた学会発表当日。

我々は、早朝、ホテルの一室に集まり最後の朝練をしてから、会場に向かった。異国の地アメリカでの学会発表は、日本での発表以上に緊張したが、チェアーの方の気配りや、やさしく見守ってくださる先生の姿に励まされた。そして、我々のプレゼンは始まった。発表時間の 30 分は、随分あっという間に感じられた。練習の成果もあって、プレゼンも質疑応答も難なく終えることができた。発表を終えて、小野先生に「よかったよ、成功だね」といわれたときの喜びは、一入であった。自分達の発表を終えた後は、同じチェアーの発表を聴き、時には、積極的に質問を行ったりして意見を交わし、他の研究者の視点や考え方について学ぶことができ、各々が有意義な時間を過ごすことができた。

国際学会での発表は、我々一同にとって、大変貴重な経験になった。このような経験ができたのも、小野先生が、我々に英訳化をすすめて下さり、さらには、お忙しい中、懇切丁寧にご指導をしてくださったからこそである。この場を借りて、先生へ感謝の気持ちを伝えたい。また、英訳するにあたり、関わったゼミ生のみなさまにも感謝いたします。本当にありがとうございました。



学会発表を終えて安堵する英論メンバー